

## いちごの夜冷育苗における処理開始時期について

### 1. 試験のねらい

いちごの夜冷育苗では、8月下旬に処理を開始して11月下旬頃から収穫する作型が一般的となっているが、最近では処理開始時期を早めて収穫始期をより前進化させる作型も導入されてきている。そこで、夜冷育苗における処理開始時期について検討した。

### 2. 試験方法

処理開始時期を6月26日、7月5日、7月15日、7月25日、8月5日の5段階として検討した。夜冷処理は1日16時間の低温処理（10℃一定）で行い、処理期間は花芽分化期までとした。

### 3. 試験結果及び考察

(1) 花芽分化は処理開始時期が早いほど早くなったが、分化までに要する日数には一定の傾向が認められず23～27日程度要した。頂花房の開花及び収穫始期も処理開始時期が早いほど早くなり、6月26日処理では9月19日からの収穫となった。一方腋花房の開花及び収穫始期は、腋花房の分化が自然条件下で誘起されることから頂花房のような差は認められず、いずれの処理開始時期においても1月以降の収穫始めとなった。頂花房の収穫始期から腋花房の収穫始期までの日数は、処理開始時期が早いほど長くなり花房の連続性はなくなった。

(2) 頂花房果実の成熟日数（開花から着色までに要する日数）は、処理開始時期が早いほど短くなり、6月26日処理では20日程度であり8月5日処理と比べて16日の差が認められた。このことは処理開始時期が早いほど果実の発育期間の気温がより高温であるためである。

また、頂花房果実の大きさは処理開始時期が早いほど小さくなり、果実の肥大は発育期間の気温と深い相関があるものと思われた。

(3) 収量は、頂花房では7月15日、7月25日及び8月5日処理が同様に優れたのに対して、6月26日及び7月5日処理では極めて劣り、年内収量はほとんど得られなかった。一方、第1次腋花房では6月26日、7月5日及び7月15日処理が優れたのに対して7月25日及び8月5日処理では劣る結果となり、花房の連続性による着果負担が認められた。総収量は7月15日処理が最も優れたが、6月26日及び7月5日処理は頂花房での収量が影響し低収となった。

### 4. 成果の要約

処理開始時期を早めることにより収穫始期の前進化が可能であるが、処理開始時期が早すぎると頂花房果実の肥大が劣り収量性に影響することが明らかとなった。そこで、果実肥大、収量性から判断すると、処理開始時期では7月15日（収穫始期では10月下旬）頃が早出しの限界であると思われた。

（担当者 栃木分場 植木正明）

表-1 処理開始時期が花芽分化、開花および収穫始期に及ぼす影響

処理開始時期	花芽分化月・日	分化までの日数	開花始期		収穫始期		花房の連続性
			頂花房	1次腋	頂花房	1次腋	
6月26日	7.21	25日	8.30	11.17	9.19	1.8	111日
7月5日	7.28	23日	9.8	11.24	9.29	1.14	107日
7月15日	8.10	26日	9.30	11.20	10.27	1.10	75日
7月25日	8.21	27日	10.9	11.17	11.11	1.8	58日
8月5日	8.31	26日	10.17	11.19	11.22	1.10	49日

注1. 花房の連続性：頂花房収穫始から腋花房収穫始までの日数

2. 1次腋：第1次腋花房

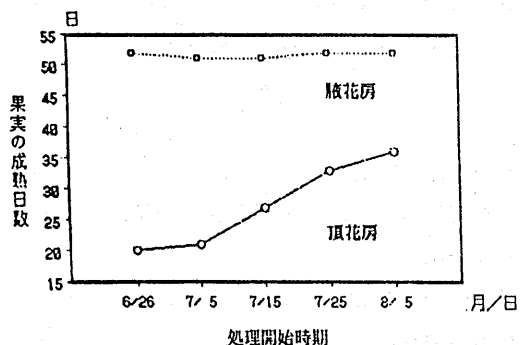


図-1 頂花房果実と腋花房果実の成熟日数

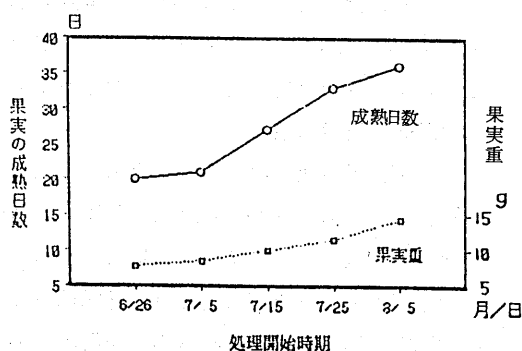


図-2 頂花房果実の成熟日数と果実重の関係

表-2 花房別収量と一果重

処理開始時期	花房別収量 g/株			合計	花房別一果重 g			
	頂花房	1次腋	2次腋		頂花房	1次腋	2次腋	平均
6月26日	14	199	79	292	7.0	13.5	10.3	12.0
7月5日	26	223	89	338	7.7	13.6	10.4	12.0
7月15日	107	219	107	433	9.2	13.0	9.9	11.0
7月25日	107	165	105	377	9.0	13.4	9.6	10.8
8月5日	113	156	90	359	10.2	12.5	9.8	11.0

注. 1次腋：第1次腋花房、2次腋：第2次腋花房。

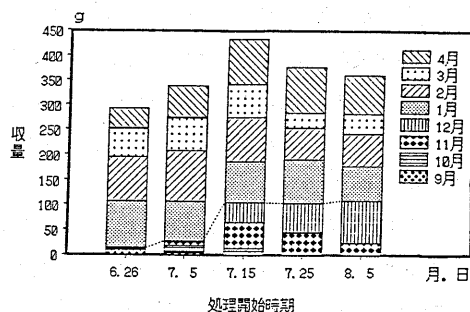


図-3 月別収量